

日出彦の歳時私記

1. 大河内山荘

11月後半に大阪の学会から足を延ばして、嵯峨野に行った。京都バスで駅から嵐山に向かったが、これが失敗だった。観光シーズン真っ盛りで、道路渋滞のため最後の一駅までに40分強かかった。

終点の京福電鉄嵐山駅前バスを降り、渡月橋に向かって歩いていくと、橋のまわりは修学旅行の学生や観光バスの乗客で大変な混雑振りである。

そこを避けて橋の袂で右折し川沿いに上流に進む。料亭やホテルの並びを過ぎ、舗装された道が途切れると急に散策する人が少なくなる。それに反比例して紅葉の美しさが増していく。やがて、その細道が通行止めになるあたりで、右手の岡に登る道が見えてくる。うっすらと汗を滲ませて上り詰めると、そこは嵐山公園亀山地区で、人はまばらに、紅葉はひっそりと色づいている。木の間隠れにみえる足下の流れは有名な保津川下りのルートで、いましも旅客を乗せた小船が小さく見えている。さらに10分ほどで保津川溪谷を見下ろす地点に至る。それより先は完全な山道に変わり、京都府管理の限界地に来てしまった。時折、目覚めるほどの紅葉に出会う。



ここままで戻ることにした。道を下っていくと、左手の山側が騒がしい。好奇心から左手の垣根沿いにぐるりと回っていくと車道にぶつかった。標識を見ると常寂光寺を指し示している。たちまちこの寺を訪問しようと思った。

道を行くことさらに10分。すると、前方に山道をいく観光客が左手に吸い込まれていく。ついていくと「大河内山荘」と書かれた入口がみえた。入場料1000円はやや高いと思ったが、お抹茶込みというので、まあ納得して入山する。

パンフレットによると大河内山荘は映画俳優の大河内傳次郎の別荘であったところで、出演料の大半を投じ約30年をかけて造作したそうである。大河内

傳次郎といえば無声映画時代に丹下左膳で一世を風靡したそうであるが、小生は東映時代劇で三太夫的な家老などの脇役で出ていた程度しか知らない。林家喜久蔵がよくまねをする口跡不明のしゃべり方であった。

さて、そこは小倉山の南面にあり、嵐山を借景にした庭園である。まさに紅葉の季節であった。



本来は静かな佇まいなのであろうが、観光に来た女性の声が響き渡る。やや騒がしい。お抹茶の席も混雑していて、仲居さんも運ぶのにおおわらわである。小生にとっては作法に縛られずに呑めるので好都合であったが。

帰途の途中に傳次郎記念館があった。そこで映していた無声映画は面白かった。感心したのはチャンバラの部分でカットが少ないことである。かなり長時間実際に戦っているわけで、カットを多用する最近の映画よりも、役者の負担が大きかったに違いない。

そして、足は常寂光寺に向かうことになる。

2. みみず

10月初めの野分の過ぎた1日、宿泊している大学のゲストハウスを出でて、キャンパスの周りの山道を散策した。ここは1990年代の初めに工業団地の造成を企図し、人材供給の目的で本学ができたらしい。しかし、92年にバブル経済が崩壊して工業団地の夢は無期延期となった。小生が赴任した99年には再開の動きがみられ、ちらりほらりと企業が工場を建てるようになった。

現在でもまだ3割は売れていないと思うが、それでもキャンパスの周りに突然工場が姿を現すということも事実である。

本来道路は除草されて都会的雰囲気になる筈であったが、このような次第で雑草が生え放題という場所がそこここに見られるのである。

さて、雨上がりの早朝、そのような道を散策すると、そうめん流しのような光景が続いていた。近づくと、皆みみずの死骸である。草むらから舗装された道路の方に這い出してきて、力尽きて死んだようである。

小生は浅学にして知らないのであるが、なぜみみずは雨の日に草むらから這い出て命を失うことをするのであろうか。みみずの環境にとって、草むらの中の方がアスファルトの固い道路よりは適しているように思うのである。なぜ、そこから大量に出てくるのか。レミングの行進と同じようなメカニズムなのだろうか。

観察すると、車に轆かれたりした痕跡がないので、寒さか雨か分からないが、自然の気候に負けて死亡したのではないかと推量する。大きいみみず、太いみみず、糸みみたいなみみず。多種多様なみみずが横たわっている。そうめんだけでなく、きしめんや讃岐うどんもミックスされている。

よくみると、その中に比率は極めて少ないが山蛭が混じっている。みみずと違い頭がT字型をしている上、腹の部分がつちのこみたいに太くなっている。

そういえば、別の雨の晩、ゲストハウスについてズボンを脱いだら、何かぬるぬるする。床を見ると山蛭がうねって動き始めている。いつ付いたのか分からないが、植物の傍を通るとき、飛びついて来るのではないかと思われた。幸いガードが固かったので血を吸われることがなかったが。

Dokugakuの皆さんにお聞きしたいが、このみみずの異常な現象はどう説明できるのだろうか。

3. 宿場そば

小田原駅近くの「寿庵（ことぶきあん）」という蕎麦屋で出す「宿場そば」はなかなかいい。

写真のようにいろいろなタイプのそばが味わえる。一つ一つは少量で、わんこそばと同じに一口で食べられるが、11碗となるとさすがに腹もくちくなるというものである。

